

只見町ブナセンターだより

9月も半ばとなり朝夕の冷え込みが秋の訪れを感じさせます。気象庁によると今年は9月、10月ともに平年よりも気温が高いため紅葉時期は平年並みか遅くなるようです。

開催中【企画展】 10月10日(火)まで

「只見町の昆虫たち—只見自然環境基礎調査の報告—」

只見ブナセンターでは2014年から2年間にわたり只見町の昆虫相についての調査研究を実施してきました。これは、只見地域は広大で奥深い山林を抱えるゆえ昆虫相についてはいまだ未解明部分が多く、それを解明することで今後の昆虫相の保全策に役立てようとするものです。今回の企画展は、この昆虫相調査の研究成果についてみなさまにご報告する企画展です。



次回【企画展】

「カゴ編みを受け継ぐ人々～只見町とボルネオ島と～」

2016年10月15日(土)～2017年2月13日(月)

只見町では、様々な自然物を用いた生活用品の自家生産がごく近年まで行われていました。しかしこの町でも、今や生活用品を自分で作ることでできる人はもとより、それを使う人自体もごくわずかになりました。生活用品を作り出す技術と自然の恵みを活用する知恵は、長い年月をかけて先人が築いてきたもので、一度失われてしまえば、再び手にすることは困難です。

この企画展では、只見町におけるつる植物を用いたカゴ編みの伝統文化をとりあげます。その種類や特徴、そしてこの文化がどのように受け継がれてきたのかを見ていきます。また、取材をもとに、現在カゴ編みを行っている方々をご紹介します。この伝統文化を将来につないでいくためには、いったい何が必要でしょうか。只見町と同じく自然物を用いた生活用品の生産が行われているボルネオ島でのラタンのカゴ編みも紹介し、伝統文化の伝承について考えます。町の方々から情報やカゴなどのご提供をいただき、町民参加型として開催します。ご期待ください！



▲使い込まれたマタタビのザル

【講座】「豊かな熱帯林が支えるボルネオ先住民の暮らしと文化 ～ラタンのカゴ編みを通して～」

講師：竹内やよい氏（国立環境研究所）

ボルネオで研究している竹内氏を講師にお呼びし、ボルネオでの生活とカゴ作りについて話していただきます。ラタンとは熱帯に生育するツル植物の総称で、日本では「籐（トウ）」と呼ばれます。ボルネオ島の熱帯林では、先住民がラタンでカゴを作っています。ラタン、と一口に言ってもその種類は何百種類もあります。どのラタンを使うか、どのような形や模様に編み上げるかといった現地の人々に伝えられてきた知恵について、竹内やよい氏にお話していただきます。ラタンのカゴ作りの背景に、人々の暮らしぶりや自然との関わり合いが見えてくることでしょうか。また、熱帯のボルネオ島と、冬には多くの雪が降る只見町では気候も森の木々も動物も全く異なりますが、多様な生物を利用した人々の生活には思わぬ共通点が見つかるかもしれません。



▲ラタンを用いた様々な生活用品

日時：12月10日（土）13時30分～15時

場所：只見町ブナセンター ミュージウムセミナー室

※講座の聴講には入館料が必要になります

＜秋の講座・観察会＞

【講座】「会津地方のカエル・サンショウウオ類とその生態」

講師：吉川夏彦氏（国立科学博物館）

一昨年、只見町で新種タダミハコネサンショウウオが発見されました。その発見者であり、両生類・爬虫類の生物多様性と分類の研究者である吉川氏をお招きします。一口に会津地方といっても、河川の両側に山が迫る只見町と盆地が広がる会津若松市では、水辺の環境も土地の管理の仕方も違います。それぞれにどんなカエルやサンショウウオが生息しているのでしょうか？また、それらはどのように生活しているのでしょうか？吉川氏にお話をしていただきます。



日時：10月22日（土）13時30分～15時

場所：只見町ブナセンター ミュージウムセミナー室

※講座の聴講には入館料が必要です

【観察会】「秋のブナ林と水辺の生き物を観察しよう」

恵みの森の沢を歩きながら、水辺のすぐ近くに迫るブナやトチノキやサワグルミの溪畔林などを観察します。また、吉川氏に同行していただき、両生類や爬虫類といった水辺の生き物を観察します。

日時：10月23日（日）10時～14時（9時45分森林の分校ふざわ集合）

観察地：恵みの森

持ち物：長靴、雨具、飲み物、昼食

参加費：大人500円、子ども400円（保険料を含む）

===== **活動報告** =====

【只見ユネスコエコパーク講演会】6月4日（土）

「地域住民が野生動植物を保護するための取り組み」

日本自然保護協会の横山隆一氏に野生動植物の保護・保全について話していただきました。横山氏は、自然保護区を「緑の回廊」で繋ぐ会津でのプロジェクトにかかわってきました。「緑の回廊」とは、人間による開発で分断された生物の生息地を、再び緑や水域で繋ぎ、野生動植物の移動を可能とする経路のことです。また、20年間、会津のイヌワシのつがいを観察してきました。

自然の中で、人間は多くの野生動植物、すなわち隣人と共に生きています。今、隣人たちが急激に減少していますが、隣人が消えていく理由は大別して4つあり、自然破壊、自然の放置、外来種への置き換わり、そして気候変動です。イヌワシは、かつての薪炭利用によって草原化した奥山を生息環境としています。開けた場所で空中から狩りをする点は、同じワシタカ類でもクマタカと大きく異なります。また、食物の99%がウサギ・ヤマドリ・ヘビと限られています。近年、人の利用が減り自然が放置されることで、奥山でも木がしげるようになり、イヌワシの夏の狩場が少なくなりました。そのため、会津のイヌワシは夏になると他の地域へ移動するそうです。この地域に10つがいほどしかないイヌワシの保護のために、来年から、会津森林管理署と共にイヌワシの夏の狩場をつくるそうです。

人と隣人はどうすれば共存できるのでしょうか？まず、自然を観察し隣人の生き方を知る



▲講師の横山氏

事です。2つ目に、隣人が頼りにしている場所を壊さない事です。3つ目が、生物の生息場所を創出するような人間活動を行うことで、隣人の生活空間をつくることです。捕る事でいなくなる生物よりも、生きる環境が無くなる事でいなくなる生物の方が多いい事を知っていただきたい、と横山氏は話されました。

【講座】 7月30日（土）

「只見町地域で見られるカミキリムシ類とその生態」

只見町では、2014年と2015年に、ユネスコエコパーク事業のひとつである自然環境基礎調査として昆虫相調査を行いました。本講座では、調査を担当された榎原寛氏（森林総合研究所）を講師にお招きし、今回の調査で明らかになった只見町の昆虫相、中でも甲虫類について解説していただきました。榎原氏は、喉のガンで手術をしており、声を出すことができません。調査をサポートしてきた役場総合政策課の中野陽介氏が、榎原氏の作成したスライドを読み上げる形で進めました。

はじめに、榎原氏が専門としているカミキリムシ類について、形態、食性、身を守る方法（擬態）などが種によって異なることなど、カミキリムシを理解するポイントを教えてもらいました。続いて、只見町の昆虫相の特徴をお話いただきました。カブトムシが小型であること、クワガタムシの種類が多様であること、大曾根湿原での珍しい甲虫の発見、良好な森林の指標種が多いこと、マイマイガの大量発生時にチョウの幼虫を食べる昆虫が増えたことなどが報告されました。只見町で採集されたカブトムシは小型のものが多く、中にはオスなのにほとんど角がないようなものもいたそうです。これは積雪期間が長いために、成長に費やせる時間が短いからだということでした。幼虫の期間を伸ばすことできちんと大きくなる種類の昆虫もいますが、カブトムシはそれができない



▲講師の榎原氏（右）と中野氏（左）

いのだそうです。クワガタムシでは、豪雪地帯に生息するユキグニコルリクワガタと暖地性のネプトクワガタの両方が見られる多様性があるということでした。只見町の昆虫相の特徴を端的にまとめていただき、只見町の自然を理解するすばらしい機会となりました。26名の方にご参加いただき、ジョークを交えての榎原氏の人柄が表れる講座を楽しみました。

【観察会】 7月31日（日）

「昆虫採集と観察会」

前日にブナセンター講座で登壇いただいた榎原寛氏と一緒に只見町の学びの森(梁取のブナ林)で昆虫採集と観察会を行いました。今回は観察場所の学びの森に事前にバナナトラップ、枝トラップ等を仕掛けました。それらで捕まえた昆虫や歩きながら捕まえた昆虫の説明をしてもらいました。バナナトラップは匂いで虫を引き寄せる昆虫トラップです。

雨の日が多かったからなのか虫の入りはいまひとつでした。このトラップには、時々ヤマネが入ることがあるそうです。今回、ヤマネがバナナを食べた形跡のあるトラップが1つありました。次にライトトラップを確認しました。ここでは、ノコギリクワガタ、ビロウドカミキリ、ノコギリカミキリ、ウスバカミキリなどの甲虫が捕れました。また、木と木の間を紐を張り、枝を何本か束ねた枝トラップを設置していました。枝トラップには枯れ木を食べたり、枝の隙間に隠れたりする昆虫、それを食べにくる昆虫等が集まります。ここで参加者に渡していた叩き網を下にしき、棒でたたいて虫を落として捕まえてもらいました。何個か叩いて周っていると叩き網の上に黒い塊がぽとぽと落ち、皆が唖然としている間に飛び去って行きました。その正体はコウモリで、隠れ場所として枝トラップを利用していたようです。残念ながら写真に収めることはできませんでした。今回の観察会では、カミキリムシ類、クワガタムシなどの甲虫やケシキスイムシ科、ハネカクシ科などの小さな昆虫が取れました。観察会終盤にヨコヤマヒゲナガカミキリが捕まえられました。この昆虫はブナの生木を食べる珍しいカミキリムシです。成虫にな



▲叩き網と棒を使って昆虫を捕まえる参加者

るとブナの若い枝を食べるために木の上の方に移動するためになかなかお目にかかれぬ昆虫です。今回の観察会には9名の方が参加されました。採れた昆虫の数は少なかったですが、捕まえた昆虫の説明を聞いたり、枯れた木や葉の下にたたき網を置いて棒で叩いて昆虫を探してみたりと非常に楽しい観察会となりました。



▲ヨコヤマヒゲナガカミキリ



観察会で捕れた昆虫は企画展に併せて標本として展示するために準備中です。お楽しみに

＜観察会で捕まえた昆虫＞

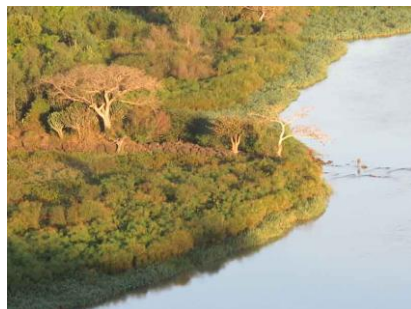
ノコギリカミキリ、ウスバカミキリ、タテジマゴマフカミキリ、ビロウドカミキリ、クロシテムシ、スジクワガタ、ミヤマクワガタ、コメツキムシ類、ケシキスイムシ科、ハネカクシ科の昆虫等

【連載：世界のBR (Biosphere Reserves: 生物圏保存地域) No.9】

ユネスコエコパークというのは日本国内の呼び名で、国際的には生物圏保存地域 (Biosphere Reserve: BR) といいます。現在、120カ国に669のBRがあります。ここでは、海外のBRをシリーズで紹介します。只見町がBRに指定された翌年の2015年には新しく20の地域が登録されました。ここでは、2015年に登録されたBRの1つを紹介します。

The Lake Tana Biosphere Reserve (Ethiopia) エチオピア タナ湖

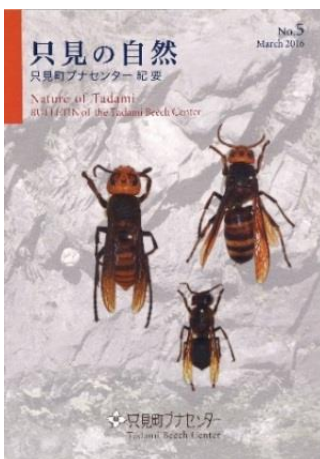
タナ湖BRはエチオピア北西部に位置しエチオピアで一番大きなタナ湖を有します。面積は約70万haあり、生物多様性が非常に豊かな場所です。重要な鳥の生息域として世界に知られ、また、農作物の遺伝的多様性も世界的に重要であることが知られています。主な経済活動は農業や漁業、国内外の観光業、砂の採掘です。この地域には、文化的、歴史的、地質的、芸術的な価値を持つ13世紀に建てられた多くの修道院と教会があります。タナ湖周辺の教会の森林は高木や灌木、薬草などの高い多様性を示し、生物多様性の保護のために重要な役割を果たしています。地元の地域社会にとって、BR登録は、環境と調和し、自然を持続可能な形で利用する伝統的な文化や知識、技術を大切にする気持ちを引き起こすねらいがあります。



出典

<http://www.unesco.org/new/en/media-services/multimedia/photos/mab-2015/ethiopia/>

【刊行物についてのお知らせ】

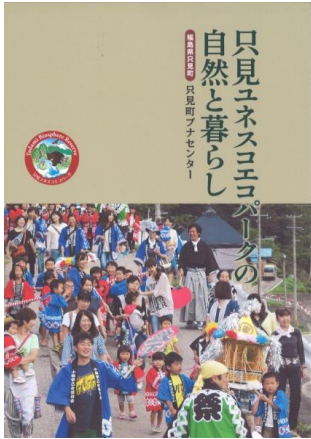


只見町ブナセンター紀要 No.5 を販売中です。

ユネスコエコパーク事業の自然環境基礎調査として、2014年から2年間に渡り昆虫相の調査が行われました。本誌はその報告書で、全ページフルカラーで昆虫を紹介しています。

※ブナセンターで1冊500円で販売しています。

「只見ユネスコエコパークの自然と暮らし」を発行しました。



ユネスコエコパークは、ユネスコ（国連教育文化科学機構）が自然と人間活動の共生を実現するための国際的な取り組みであるMAB計画（人間と生物圏計画）のモデル地域、すなわちBiosphere Reserve（生物圏保存地域）の日本における呼称です。2014年6月、只見町の全域と檜枝岐村の一部地域は、「只見ユネスコエコパーク」として認定・登録されました。本書は、そうした只見ユネスコエコパークの自然環境、野生動植物、それらと密接に結びついた地域住民の生活・文化を紹介するものです。※ブナセンターで1冊1500円で販売しています。

【寄贈図書・資料】 2016年4月～8月

以下の通り図書や資料を寄贈いただきましたので、ご報告します。ご寄贈くださった方々に感謝申し上げます。

■ 図書

- ・山の自然学クラブ（山の自然学クラブ会報第15号）
- ・長谷部忠夫さん（八十里越の道筋・歴史の道八十里越 会津と越後の道筋調査報告）
- ・楨原寛さん（標準原色図鑑全集1 蝶・蛾／コンパクト版16 原色昆虫図鑑Ⅱ甲虫他／自然観察シリーズ15生態編 日本の甲虫／森林防疫－森の生物と被害－ No.65(3)／インセクタリウム 1969年～1994年／昆虫(Japanese Journal of entomology) 1966年～2009年／Entomological Science 1998年～2009年)
- ・会津生物同好会（会津生物同好会誌 No.50～No.54）
- ・只見町教育委員会（只見町文化財調査報告書第20集 修験吉祥院・聖教典籍文書目録／只見町文化財調査報告書第21集 医家原田家書籍目録／地域人材育成ダイヤモンドプラン成果発表資料（第2期～第6期））

■ 標本・展示資料

五十嵐成明さん（只見）民具一式／菅家アキ子さん（黒谷）写真／菅家三保子さん（只見）鳥類・哺乳類／熊倉彰さん（黒沢）鳥類／高原豊さん（桧戸）哺乳類・鳥類／新国勇さん（只見）鳥類／長谷部克則さん（叶津）鳥類／本名一二さん（福井）剥製・毛皮・民具／目黒淳一さん（只見）鳥類／目黒彰一さん（只見）剥製／渡部和子さん（桧戸）哺乳類／渡部賢史さん（福井）鳥類／渡部はるかさん（福井）鳥類／渡部正敬さん（小川）剥製・民具一式／横山守也さん（桧戸）剥製

【只見町ブナセンター 2016年度9月以降の行事予定】

開催期間	行事名
7月23日(土)～10月10日(火)	企画展 「只見町の昆虫たち－只見自然環境基礎調査の報告」
9月23日(金)	企画展を見よう！（ブナセンター友の会主催）
10月15日(土)～2月13日(月)	企画展「カゴ編みを受け継ぐ人々～只見町とボルネオ島と～」
10月22日(土)	ブナセンター講座 「会津地方のカエル・サンショウウオ類とその生態」 講師：吉川夏彦氏（国立科学博物館）
10月23日(日)	自然観察会 「秋のブナ林と水辺の生き物を観察しよう」 観察地：恵みの森
未定	【町外展】「自然首都・只見」展
12月10日(土)	ブナセンター講座「豊かな熱帯林が支えるボルネオ先住民の暮らしと文化 ～ラタンのカゴ編みを通して～」 講師：竹内やよい氏（国立環境研究所）
1月	【座談会】（仮）私のカゴ編み
未定	只見の雪を記録しよう（写真による自然記録会） 講師：猪又かじこ氏
2月中旬～4月中旬	【ミニ展示】「自然首都・只見」展
3月	【自然観察会】冬のブナ林を歩く

【編集後記】秋の行事案内を書いていると季節がさあっと過ぎてしまったように感じます。もうすぐ冬ですね。今年の冬は雪が少なくて過ごしやすいかったです。今冬はどうなるか心配です。秋、冬と講座・観察会などのイベントを予定しておりますので是非ご参加ください。

発行 **只見町ブナセンター** 〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下 2590 番地

開館時間：午前9時～午後5時（最終受付は午後4時まで）

休館日：火曜日（祝祭日の場合は翌平日）

入館料：高校生以上 300円 小中学生 200円 未就学児無料（20人以上は団体割引）

電話 0241(72)8355 **ホームページ** <http://www.tadami-buna.jp>

FAX 0241(72)8356 **電子メール** info-buna@amail.plala.or.jp



只見町ブナセンター